

やんばる国立公園

公園区域及び公園計画変更書

[一部変更]

(環境省原案)

平成 年 月 日

環 境 省

目次

第1	公園区域の変更	1
1	変更理由	1
2	指定理由の変更内容	2
3	地域の概要の変更内容	4
4	変更する公園区域	12
第2	公園計画の変更	27
1	変更理由	27
2	基本方針の変更内容	28
3	規制計画の変更内容	30
(1)	保護規制計画及び関連事項	30
ア	特別地域	30
(ア)	特別保護地区	34
(イ)	第1種特別地域	38
(ウ)	第2種特別地域	42
(エ)	第3種特別地域	45
イ	関連事項	48
(ア)	普通地域	48
ウ	面積内訳	51
4	事業計画の変更内容	69
(1)	施設計画	69
ア	利用施設計画	69
(ア)	単独施設	69
(イ)	道路	71
5	参考事項の変更内容	91
(1)	過去の経緯	91

第1 公園区域の変更

1 変更理由

やんばる国立公園は、琉球諸島を構成する沖縄島の北部地域のうち、国頭村、大宜味村、東村の一带（以下、「やんばる地域」という。）に位置する。世界的にも数少ない国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に、ヤンバルクイナをはじめとした多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育し、石灰岩の海食崖やカルスト地形、マングローブ林など多様な自然環境を有している。また高湿度の山地に発達する雲霧林、溪流植物群落などの河川生態系、石灰岩地特有の動植物、マングローブ生態系といった多様な生態系が複合的に一体となった景観を風景型式とした、我が国を代表する傑出した地域として、平成28年9月15日に、やんばる国立公園として指定された。

国立公園指定後の平成28年12月22日に本国立公園に隣接するアメリカ軍北部訓練場の一部、約4,000ha（以下、「返還地」とする。）が、我が国に返還された。これを踏まえ、返還地内において、自然環境調査・分析を行った結果、脊梁山地周辺を中心に、高い林齢の亜熱帯照葉樹林、雲霧林及び溪流植物群落などが広がり、固有種や遺存固有種、世界的にも絶滅のおそれのある重要な野生生物が集中して分布する特徴的な生態系が形成されており、本国立公園と一体的な風景型式を有していることを確認した。また、関係村から、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産」の登録に向け、返還地の本国立公園への早期編入の要望が出されている。

以上を踏まえ、これら景観要素により構成された風景と豊かな生物多様性について、既存の国立公園区域と一体的かつ適正な保護管理を図るため、本国立公園の公園区域の拡張を行うものである。

2 指定理由の変更内容

指定理由を次のとおり変更する。

(表 1 : 指定理由変更表)

変更後	変更前
<p>①景観（同一風景中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地） （略）</p> <p>②規模（区域面積が原則として1万 ha 以上（島嶼）） 本国立公園の区域面積は <u>17,311</u>ha（陸域）である。</p> <p>③自然性（原生的な景観核心地域が原則として約 2,000ha 以上） 本国立公園の原生的な景観核心地域は、<u>西銘岳、伊部岳、照首山、与那覇岳、伊湯岳及び玉辻山周辺の脊梁山地、ネクマチヂ岳周辺、辺戸岳、辺戸岬</u>などであり、その合計区域面積は <u>8,010</u>ha である。 ＜参考：特別保護地区：<u>3,009</u>ha、第1種特別地域：<u>5,001</u>ha＞</p> <p>④利用（大人数による利用が可能） （略）</p> <p>⑤地域社会の共存（地域社会の理解の獲得） （略）</p>	<p>①景観（同一風景中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地） （略）</p> <p>②規模（区域面積が原則として1万 ha 以上（島嶼）） 本国立公園の区域面積は <u>13,622</u> ha（陸域）である。</p> <p>③自然性（原生的な景観核心地域が原則として約 2,000ha 以上） 本国立公園の原生的な景観核心地域は、<u>伊部岳周辺、西銘岳周辺</u>の<u>一帯、与那覇岳、辺戸岳</u>や脊梁山地、ネクマチヂ岳周辺、<u>辺戸岬</u>などであり、その合計区域面積は <u>5,195</u> ha である。 ＜参考：特別保護地区：<u>789</u> ha、第1種特別地域：<u>4,406</u> ha＞</p> <p>④利用（大人数による利用が可能） （略）</p> <p>⑤地域社会の共存（地域社会の理解の獲得） （略）</p>

変更後	変更前
<p>また、本国立公園のテーマを「亜熱帯の森やんばる－多様な生命(いのち)育む山と人々の営み」とし、多種多様な固有又は希少な動植物が生息・生育する生態系を保全し、これらの自然をおそれ敬うと同時に豊かな恵みを享受しながら育まれてきた地域のくらしと文化の維持継承に寄与し、豊かな生物多様性と独特な亜熱帯森林生態系を実感できる国立公園を目指す。</p>	<p>また、本国立公園のテーマを「亜熱帯の森やんばる－多様な生命(いのち)育む山と人々の営み」とし、多種多様な固有又は希少な動植物が生息・生育する生態系を保全し、これらの自然をおそれ敬うと同時に豊かな恵みを享受しながら育まれてきた地域のくらしと文化の維持継承に寄与し、豊かな生物多様性と独特な亜熱帯森林生態系を実感できる国立公園を目指す。</p> <p>なお、既に沖縄海岸国定公園に指定されている地域の一部は本国立公園に編入する。</p>

(補足)

変更前③自然性に記載されている景観核心地域の面積及び第1種特別地域の面積に誤りがあったため、変更後の同箇所の各面積は、変更前に記載されている面積に今回変更に係る面積と誤りがあった面積の和を加算した。

面積誤り箇所

景観核心地域の面積 : (誤) 5,195ha → (正) 5,217ha

第1種特別地域の面積 : (誤) 4,406ha → (正) 4,428ha

3 地域の概要の変更内容

地域の概要を次のとおり変更する。

(表 2 : 地域概要変更表)

変更後	変更前
<p>(前文 略)</p> <p>(1) 景観の特性</p> <p>ア 地形・地質 (略)</p> <p>イ 植生</p> <p>やんばる地域における森林率は 80.5%である。やんばる地域で最も広い面積を占めている自然植生は、山地の酸性土壌に発達するスダジイやオキナワウラジロガシなどのブナ科植物で代表される亜熱帯常緑広葉樹林である。中でも、オキナワシキミースダジイ群集が全体の約 4 割を占めている。次いで、ヤブツバキクラス域代償植生の常緑広葉樹二次林のギョクシンカースダジイ群集 18.9%、常緑針葉樹林二次林のリュウキュウマツ群落 12.3%が占める。古生層石灰岩上には、自然林のナガミボチョウジーリュウキュウガキ群落が分布している。そのほか、小面積であるが特徴的な植生としては、国頭村ではオキナワウラジロガシ群集、ソテツ群落、モリヘゴ群落、大宜味村ではアマミアラカシ群落、東村ではマングローブ群落などが見られる。</p>	<p>(前文 略)</p> <p>(1) 景観の特性</p> <p>ア 地形・地質 (略)</p> <p>イ 植生</p> <p>やんばる地域における森林率は 80.5%である。やんばる地域で最も広い面積を占めている自然植生は、山地の酸性土壌に発達するスダジイやオキナワウラジロガシなどのブナ科植物で代表される亜熱帯常緑広葉樹林である。中でも、オキナワシキミースダジイ群集が全体の約 4 割を占めている。次いで、ヤブツバキクラス域代償植生の常緑広葉樹二次林のギョクシンカースダジイ群集 18.9%、常緑針葉樹林二次林のリュウキュウマツ群落 12.3%が占める。古生層石灰岩上には、自然林のナガミボチョウジーリュウキュウガキ群落が分布している。そのほか、小面積であるが特徴的な植生としては、国頭村ではオキナワウラジロガシ群集、ソテツ群落、モリヘゴ群落、大宜味村ではアマミアラカシ群落、東村ではマングローブ群落などが見られる。</p>

変更後	変更前
<p>やんばる地域の森林は、琉球王府時代より建築や造船の用材、薪、木炭といった沖縄の森林資源の供給地としての役割を担い、その多くが過去に人の手が入ったことのある森であり、現在も沖縄県における林業・林産業の拠点となっている。伊部岳から西銘岳までの一帯及び伊湯岳から玉辻山の東部地域は、多くが昭和 10 年代以降伐採されていない自然林である。亜熱帯常緑広葉樹林は、伐採されると切り株からの萌芽、種子の発芽により速やかに広葉樹林に回復する。農地等が放置されるとススキ草原を経てイジュやリュウキュウマツが優占する二次林となり、長い時間をかけて自然林へと戻る。また、リュウキュウマツ群落はこのような遷移途中の二次林と、人工林によるものを含む。</p> <p>やんばる地域の森林に民有林が占める割合は 72.6%である。民有林立木地の 82.7%を占める天然林のうち広葉樹は 85.9%であり、スダジイ、オキナワウラジロガシ、イスノキ等が主である。人工林のうち広葉樹は 38.1%を占め、リュウキュウマツ、イヌマキ等の針葉樹が主体となっている。天然林のうち育成複層林は 18.1%を占め、人の手により維持する施業が行われている。</p> <p>ウ 野生動植物 ～ カ 人文景観 (略)</p>	<p>やんばる地域の森林は、琉球王府時代より建築や造船の用材、薪、木炭といった沖縄の森林資源の供給地としての役割を担い、その多くが過去に人の手が入ったことのある森であり、現在も沖縄県における林業・林産業の拠点となっている。伊部岳から西銘岳までの一帯は、多くが昭和 10 年代以降伐採されていない自然林である。亜熱帯常緑広葉樹林は、伐採されると切り株からの萌芽、種子の発芽により速やかに広葉樹林に回復する。農地等が放置されるとススキ草原を経てイジュやリュウキュウマツが優占する二次林となり、長い時間をかけて自然林へと戻る。また、リュウキュウマツ群落はこのような遷移途中の二次林と、人工林によるものを含む。</p> <p>やんばる地域の森林に民有林が占める割合は 72.6%である。民有林立木地の 82.7%を占める天然林のうち広葉樹は 85.9%であり、スダジイ、オキナワウラジロガシ、イスノキ等が主である。人工林のうち広葉樹は 38.1%を占め、リュウキュウマツ、イヌマキ等の針葉樹が主体となっている。天然林のうち育成複層林は 18.1%を占め、人の手により維持する施業が行われている。</p> <p>ウ 野生動植物 ～ カ 人文景観 (略)</p>

変更後	変更前
<p>(2) 利用の現況</p> <p>沖縄県における平成 28 年度の国内入域観光客数(県外から県内へ入ってきた国内客人数)は <u>664 万 100 人</u> (平成 28 年度沖縄県入域観光客統計概況(沖縄県)) で、同じ期間における国内客のやんばる地域への訪問率は <u>6.0%</u> となっており、単純に計算すると、やんばる地域の国内訪問者は <u>40 万人</u> と想定される。同じ期間のやんばる地域への宿泊率は <u>1.7%</u> であり、やんばる地域への訪問者のうち 7 割がやんばる地域外への宿泊による日帰り利用となっている(平成 28 年度観光統計実態調査報告書)。</p> <p>また、やんばる地域は沖縄島中南部地域にはない森・川・海を楽しむための県民の手頃なレジャー先にもなっており、やんばる野生生物保護センターの利用者でも、半数近くが中南部地域からの利用者となっている。</p> <p>利用形態は、辺戸岬や比地大滝^{ひじおおたき}などの景勝地や観光地めぐり、与那覇岳やネクマチヂ岳などの亜熱帯照葉樹林の散策、東村慶佐次^{げさ}のマングローブや安波^{あは}ダムなどのダム湖を利用したカヌー体験、川遊び、海水浴や海浜でのキャンプなどが行われている。そのほか、ヤンバルクイナやノグチゲラなどのやんばる地域の生き物観察を目的とした利用も行われている。</p>	<p>(2) 利用の現況</p> <p>沖縄県における平成 25 年度の国内入域観光客数(県外から県内へ入ってきた国内客人数)は <u>595 万 3,100 人</u> (平成 25 年度沖縄県入域観光客統計概況(沖縄県)) で、同じ期間における国内客のやんばる地域への訪問率は <u>8.2%</u> となっており、単純に計算すると、やんばる地域の国内訪問者は <u>49 万人</u> と想定される。同じ期間のやんばる地域への宿泊率は <u>2.7%</u> であり、やんばる地域への訪問者のうち 7 割がやんばる地域外への宿泊による日帰り利用となっている(平成 25 年度観光統計実態調査報告書)。</p> <p>また、やんばる地域は沖縄島中南部地域にはない森・川・海を楽しむための県民の手頃なレジャー先にもなっており、やんばる野生生物保護センターの利用者でも、半数近くが中南部地域からの利用者となっている。</p> <p>利用形態は、辺戸岬や比地大滝^{ひじおおたき}などの景勝地や観光地めぐり、与那覇岳やネクマチヂ岳などの亜熱帯照葉樹林の散策、東村慶佐次^{げさ}のマングローブや安波^{あは}ダムなどのダム湖を利用したカヌー体験、川遊び、海水浴や海浜でのキャンプなどが行われている。そのほか、ヤンバルクイナやノグチゲラなどのやんばる地域の生き物観察を目的とした利用も行われている。</p>

変更後	変更前																																																																
<p>(3) 社会経済的背景</p> <p>ア 土地所有別 本区域は、公園区域 <u>17,314</u> ha (陸域) のうち、<u>国有地 6,436ha (37.1%)</u>、<u>公有地 7,852 ha (45.4%)</u>、<u>私有地等 3,026ha (17.5%)</u> であり、<u>国有地及び公有地の本区域を占める割合が大きい</u>。</p> <p>イ 人口及び産業 やんばる地域の人口は、<u>平成 27 年 10 月時点で 9,688 人</u>である。村別に見ると、<u>国頭村 4,908 人、大宜味村 3,060 人、東村 1,720 人</u>であり、<u>いずれの村も減少傾向にある。年齢構成は、15 歳未満 13.1%、15～64 歳 56.5%、65 歳以上 30.4% となっております (平成 27 年国勢調査)</u>、<u>全国平均に比べて 65 歳以上の割合が高い</u>。</p>	<p>(3) 社会経済的背景</p> <p>ア 土地所有別 本区域は、公園区域 <u>13,622</u> ha (陸域) のうち、<u>国有地 2,937 ha (21.6%)</u>、<u>公有地 7,672 ha (56.3%)</u>、<u>私有地等 3,013 ha (22.1%)</u> であり、<u>公有地の本区域を占める割合が大きい</u>。</p> <p>イ 人口及び産業 やんばる地域の人口は、<u>平成 26 年 6 月時点で 9,762 人</u>である。村別に見ると、<u>国頭村 4,906 人、大宜味村 3,139 人、東村 1,717 人</u>であり、<u>いずれの村も減少傾向にある。年齢構成は、15 歳未満 12.8%、15～64 歳 58.9%、65 歳以上 28.3% となっております (平成 22 年国勢調査)</u>、<u>全国平均に比べて 65 歳以上の割合が高い</u>。</p>																																																																
<p>表 1 人口の推移 (国勢調査)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>昭和 60 年</th> <th>平成 2 年</th> <th>平成 7 年</th> <th>平成 12 年</th> <th>平成 17 年</th> <th>平成 22 年</th> <th>平成 27 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国頭村</td> <td>6,510</td> <td>6,114</td> <td>6,015</td> <td>5,825</td> <td>5,546</td> <td>5,188</td> <td><u>4,908</u></td> </tr> <tr> <td>大宜味村</td> <td>3,567</td> <td>3,513</td> <td>3,437</td> <td>3,281</td> <td>3,371</td> <td>3,221</td> <td><u>3,060</u></td> </tr> <tr> <td>東村</td> <td>2,134</td> <td>1,891</td> <td>1,963</td> <td>1,861</td> <td>1,812</td> <td>1,794</td> <td><u>1,720</u></td> </tr> </tbody> </table>		昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	国頭村	6,510	6,114	6,015	5,825	5,546	5,188	<u>4,908</u>	大宜味村	3,567	3,513	3,437	3,281	3,371	3,221	<u>3,060</u>	東村	2,134	1,891	1,963	1,861	1,812	1,794	<u>1,720</u>	<p>表 1 人口の推移 (国勢調査)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>昭和 60 年</th> <th>平成 2 年</th> <th>平成 7 年</th> <th>平成 12 年</th> <th>平成 17 年</th> <th>平成 22 年</th> <th>平成 26 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国頭村</td> <td>6,510</td> <td>6,114</td> <td>6,015</td> <td>5,825</td> <td>5,546</td> <td>5,188</td> <td><u>4,906</u></td> </tr> <tr> <td>大宜味村</td> <td>3,567</td> <td>3,513</td> <td>3,437</td> <td>3,281</td> <td>3,371</td> <td>3,221</td> <td><u>3,139</u></td> </tr> <tr> <td>東村</td> <td>2,134</td> <td>1,891</td> <td>1,963</td> <td>1,861</td> <td>1,812</td> <td>1,794</td> <td><u>1,717</u></td> </tr> </tbody> </table>		昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 26 年	国頭村	6,510	6,114	6,015	5,825	5,546	5,188	<u>4,906</u>	大宜味村	3,567	3,513	3,437	3,281	3,371	3,221	<u>3,139</u>	東村	2,134	1,891	1,963	1,861	1,812	1,794	<u>1,717</u>
	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年																																																										
国頭村	6,510	6,114	6,015	5,825	5,546	5,188	<u>4,908</u>																																																										
大宜味村	3,567	3,513	3,437	3,281	3,371	3,221	<u>3,060</u>																																																										
東村	2,134	1,891	1,963	1,861	1,812	1,794	<u>1,720</u>																																																										
	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 26 年																																																										
国頭村	6,510	6,114	6,015	5,825	5,546	5,188	<u>4,906</u>																																																										
大宜味村	3,567	3,513	3,437	3,281	3,371	3,221	<u>3,139</u>																																																										
東村	2,134	1,891	1,963	1,861	1,812	1,794	<u>1,717</u>																																																										

変更後							
3村合計	12,211	11,518	11,415	10,967	10,729	10,203	9,688

変更前							
3村合計	12,211	11,518	11,415	10,967	10,729	10,203	9,762

※平成26年は各村資料による。

表2 年齢別人口（平成27年国勢調査）

	総数 人口	15歳未満 人口	15～64歳 人口	65歳以上 人口
国頭村	4,908	646 (13.1%)	2,772 (56.5%)	1,490 (30.4%)
大宜味村	3,060	373 (12.2%)	1,691 (55.3%)	996 (32.5%)
東村	1,720	232 (13.5%)	968 (56.3%)	520 (30.2%)
合計	9,688	1,251 (12.9%)	5,431 (56.1%)	3,006 (31.0%)
全国平均 (%)		12.6%	60.7%	26.7%

(略)

(エ) その他
(河川区域(2級河川))

名称	位置	重複延長
----	----	------

表2 年齢別人口（平成22年国勢調査）

	総数 人口	15歳未満 人口	15～64歳 人口	65歳以上 人口
国頭村	5,188	697 (13.4%)	3,062 (59.0%)	1,429 (27.5%)
大宜味村	3,221	361 (11.2%)	1,867 (58.0%)	993 (30.8%)
東村	1,794	247 (13.8%)	1,083 (60.4%)	464 (25.9%)
合計	10,203	1,305 (12.8%)	6,012 (58.9%)	2,886 (28.3%)
全国平均 (%)		13.2%	63.8%	23.0%

(略)

(エ) その他
(河川区域(2級河川))

名称	位置	重複延長
----	----	------

変更後			変更前		
		(km)			(km)
与那川	沖縄県国頭郡国頭村字与那以下海に至る	1.8	与那川	沖縄県国頭郡国頭村字与那以下海に至る	1.8
辺野喜川	沖縄県国頭郡国頭村字辺野喜以下海に至る	5.0	辺野喜川	沖縄県国頭郡国頭村字辺野喜以下海に至る	5.0
安波川	沖縄県国頭郡国頭村字安波以下海に至る	<u>6.4</u>	安波川	沖縄県国頭郡国頭村字安波以下海に至る	<u>4.4</u>
普久川	沖縄県国頭郡国頭村字伊部以下安波川落合に至る	<u>6.9</u>	普久川	沖縄県国頭郡国頭村字伊部以下安波川落合に至る	<u>1.5</u>
床川	沖縄県国頭郡国頭村字安波川瀬原国有林30林班い小班地先から安波川合流点まで	<u>2.0</u>	比地川	沖縄県国頭郡国頭村字比地以下海に至る	5.1
比地川	沖縄県国頭郡国頭村字比地以下海に至る	5.1	奥間川	沖縄県国頭郡国頭村字奥間以下比地川合流点まで	4.0
奥間川	沖縄県国頭郡国頭村字奥間以下比地川合流点まで	4.0	奥川	沖縄県国頭郡国頭村字奥仲田原1037番地先から海に至る	2.0
奥川	沖縄県国頭郡国頭村字奥仲田原1037番地先から海に至る	2.0	福地川	沖縄県国頭郡東村高江高江原466-1地先から海に至る	0.1
沢又川	沖縄県国頭郡東村字高江国有林16林班ろ小班地先から福地川に至る	<u>0.4</u>	新川川	沖縄県国頭郡東村字高江高江原466番地先から海に至る	3.3
藍川	沖縄県国頭郡東村字川田国有林5林班に小班地先から福地川に至る	<u>3.0</u>	大保川	沖縄県国頭郡大宜味字饒波柚山1321番地先から海に至る	4.3
			田嘉里川	沖縄県国頭郡大宜味村字田嘉里赤又原	2.1

変更後			変更前		
ふくちがわ 福地川	沖縄県国頭郡東村高江高江原466-1地先 から海に至る	0.1		1712番地先から海に至る	
あらかわがわ 新川	沖縄県国頭郡東村字高江高江原466番地 先から海に至る	3.3			
たいほがわ 大保川	沖縄県国頭郡大宜味字饒波柚山1321番 地先から海に至る	4.3			
たなかざとがわ 田嘉里川	沖縄県国頭郡大宜味村字田嘉里赤又原 1712番地先から海に至る	2.1			

4 変更する公園区域

やんばる国立公園の区域の一部を次のとおり変更する。

(表3：公園区域（陸域）変更表)

番号	区分	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
1	拡張	<p>沖縄県国頭郡国頭村内</p> <p>国有林沖縄森林管理署 31 林班、38 林班、39 林班、44 林班、46 林班、47 林班及び 63 林班の全部並びに 27 林班、28 林班、30 林班、32 林班から 37 林班、41 林班から 43 林班、45 林班及び 57 林班の各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村</p> <p>字安田、字安波及び字与那の各一部</p>	<p>平成 28 年 12 月 22 日にアメリカ軍北部訓練場の一部が返還された地域である。</p> <p>主にスダジイやオキナワウラジロガシなどのブナ科植物に代表される亜熱帯照葉樹林が広がり、一部若齢の広葉樹林やリュウキュウマツ林が混在する。本地域の森林の多くは、林齢 50 年を超えた良好な状態で維持されており、スダジイやイスノキなどの大径木の樹洞は希少動物の生息環境になっている。標高 300m 以上の高標高地には、雲霧帯的な環境が発達し、オキナワセッコクをはじめ、地生や着生のシダ植物やラン科植物などの固有植物及び希少植物が生育する。また、溪流環境には、増水時に急流にさらされる環境に適応し、葉が流線形や矮小化した大陸系・北方系の溪流植物が特異的に分布する。</p> <p>このような森林環境において、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、リュウキュウヤマガメ、ケナガネズミ、沖縄島北部でみられる絶滅危惧種であるカエル類の全て、クロイワトカゲモドキなどの固有動物及び希少動物の生息が確認されている。</p>	<p>3,011</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>2,818</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>13</td> </tr> </table>	国	2,818	公	180	私	0	不	13
国	2,818											
公	180											
私	0											
不	13											

番号	区分	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
			これら景観要素により構成された風景と豊かな生物多様性は、既存の国立公園と同一かつ連続的なものであり、返還後、既存の国立公園と一体的かつ適正な保護管理を図るため、公園区域の拡張を行うものである。									
2	拡張	<p>沖縄県国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 3 林班及び 4 林班の全部並びに 5 林班、7 林班、14 林班から 17 林班及び 19 林班の各一部</p> <p>沖縄県国頭郡東村 字高江の一部</p>	同上	<p>679</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>679</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	679	公	0	私	0	不	0
国	679											
公	0											
私	0											
不	0											
3	削除	<p>沖縄県国頭郡大宜味村 字大宜味の一部</p>	当該地域における一体的な公園管理を図るため、土地所有を精査し、区域線の見直しを行うもの。	<p>△1</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>△1</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	0	公	0	私	△1	不	0
国	0											
公	0											
私	△1											
不	0											

番号	区分	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
			変更部分面積計	3,689 [国 3,497] 公 180 私 △1 不 13]
			変更前公園面積	13,622 [国 2,937] 公 7,672 私 2,729 不 284]
			変更後公園面積	17,311 [国 6,434] 公 7,852 私 2,728 不 297]

第2 公園計画の変更

1 変更理由

やんばる国立公園は、平成28年9月15日に全国33番目の国立公園として新規指定された。その後、平成28年12月22日には、本国立公園に隣接する北部訓練場の一部、約4,000haが我が国に返還された。

返還地内において自然環境調査・分析を行った結果、脊梁山地周辺を中心に、多くの固有動植物及び希少動植物が分布する高い林齢の亜熱帯照葉樹林、雲霧林及び溪流植物群落などが広がり、優れた生物多様性が保たれているとともに、本国立公園と一体的な風景型式を有していることを確認した。また、関係村から、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産」の登録に向け、返還地の本国立公園への早期編入の要望が出されてきた。

返還地のこれらの風景と豊かな生物多様性は、既存の国立公園と同一かつ連続的なものであり、返還後、既存の国立公園と一体的かつ適正な保護管理を図る必要があることから、公園区域を拡張するとともに、下記の作業方針のもと、公園計画の一部変更を行う。

<規制計画>

- ・林齢50年以上の良好な亜熱帯照葉樹林、高標高地に発達する雲霧林、溪流沿いの岩上に発達する溪流植物群落、既存の国立公園の脊梁山地からつながる固有動植物及び希少動植物の生息・生育地域の連続性を確保するという観点から保護の重要性が高い地域については、特別保護地区又は第1種特別地域に指定する。
- ・農地及び林業地と隣接する亜熱帯照葉樹林であり、リュウキュウマツ人工林等が混在する地域及びダム湖については、第2種特別地域に指定する。
- ・リュウキュウマツを中心とする若齢の森林や森林施業が行われる地域については、第3種特別地域に指定する。

<事業計画>

- ・新たに編入される返還地の適正な利用の推進を図るとともに、既存の本国立公園指定後の利用実態や、森林ツーリズムの推進に向けた地域の動きを踏まえ、園地事業の追加、道路（歩道・車道）事業の追加及び路線の変更を行う。

2 基本方針の変更内容

基本方針を次のとおり変更する。

(表 4 : 基本方針変更表)

変更後	変更前
<p>(前文 略)</p> <p>(1) 保護に関する基本方針 (略)</p> <p>ア 規制計画 (ア) 特別地域 a 特別保護地区 伊部岳周辺、西銘岳周辺の<u>一帯及び脊梁山地の東側の地域から普久川流域は樹齢 70 年生以上の高齡林で大径木を有するとともに、溪流沿いの岩上に発達する溪流植生がみられ、希少かつ固有な動植物の重要な生息・生育地となっている。与那覇岳及び伊湯岳周辺の一帯については、動植物の重要な生息・生育地であるとともに、雲霧林が発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存在する。辺戸岳はカルスト地形からなる特有の景観を有している。これらの生物の多様性及び優れた景観を保護するため特別保護地区とする。</u></p> <p>b 第 1 種特別地域 ～ d 第 3 種特別地域</p>	<p>(前文 略)</p> <p>(1) 保護に関する基本方針 (略)</p> <p>ア 規制計画 (ア) 特別地域 a 特別保護地区 伊部岳周辺、西銘岳周辺の一帯は高齡林で大径木を有し、希少かつ固有な動植物の重要な生息・生育地となっている。与那覇岳は動植物の重要な生息・生育地であるとともに、雲霧林が発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存在する。辺戸岳はカルスト地形からなる特有の景観を有している。これらの生物の多様性及び優れた景観を保護するため特別保護地区とする。</p> <p>b 第 1 種特別地域 ～ d 第 3 種特別地域</p>

変更後	変更前
<p>(略)</p> <p>(2) 利用に関する基本方針 (略)</p> <p>(3) 施設計画 (ア) 単独施設 亜熱帯照葉樹林やカルスト地形、<u>ダム湖面</u>での自然探勝、海食崖の海岸の眺望、マングローブ林や干潟の生きもの観察などを行うために必要な施設計画を配置する。 当該地域において既に整備されている園地、宿泊施設、キャンプ場等も公園利用に資する施設は計画に位置づける。 固有又は希少な動植物の生息・生育地である亜熱帯照葉樹林における利用施設の整備・維持管理にあたっては、利用による自然環境への悪影響に留意する。</p> <p>(イ) 道路 (略)</p>	<p>(略)</p> <p>(2) 利用に関する基本方針 (略)</p> <p>(3) 施設計画 (ア) 単独施設 亜熱帯照葉樹林やカルスト地形での自然探勝、海食崖の海岸の眺望、マングローブ林や干潟の生きもの観察などを行うために必要な施設計画を配置する。 当該地域において既に整備されている園地、宿泊施設、キャンプ場等も公園利用に資する施設は計画に位置づける。 固有又は希少な動植物の生息・生育地である亜熱帯照葉樹林における利用施設の整備・維持管理にあたっては、利用による自然環境への悪影響に留意する。</p> <p>(イ) 道路 (略)</p>

3 規制計画の変更内容

(1) 保護規制計画及び関連事項

保護規制計画などの一部を次のとおり変更する。

ア 特別地域

特別地域の区域の一部を、次のとおり変更する。

(表5：特別地域変更表)

都道府 県名	変更後		変更前	
	区域	面積 (ha)	区域	面積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 31 林班、38 林班から 40 林班、46 林班から 53 林班、55 林班から 59 林班、62 林班及び 63 林班の全部並びに 27 林班、28 林班、30 林班、32 林班から 37 林班、41 林班から 45 林班、54 林班、60 林班及び 61 林班の各一部	12,367 国 5,544 公 5,062 私 1,627 不 134	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 40 林班、48 林班から 53 林班まで、55 林班、56 林班、58 林班、59 林班及び 62 林班の全部並びに 41 林班、45 林班、54 林班、57 林班、60 林班及び 61 林班の各一部	9,381 国 2,751 公 4,882 私 1,627 不 121
	国頭郡国頭村 字安田、字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、字宜名真、字佐手、字謝敷、字楚洲、字浜、字比地、字辺戸、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部		国頭郡国頭村 字安田、字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、字宜名真、字佐手、字謝敷、字楚洲、字浜、字比地、字辺戸、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部	

都道府 県名	変更後		変更前	
	区域	面積 (ha)	区域	面積 (ha)
	国頭郡大宜味村 字上原、字大兼久、字大宜味、字押川、 字喜如嘉、字塩屋、字謝名城、字白浜、 字田嘉里、字田港、字津波、字饒波、 字根路銘、字宮城及び字屋古の各一 部	2,478 国 36 公 1,847 私 518 不 77	国頭郡大宜味村 字上原、字大兼久、字大宜味、字押川、 字喜如嘉、字塩屋、字謝名城、字白浜、 字田嘉里、字田港、字津波、字饒波、 字根路銘、字宮城及び字屋古の各一 部	2,479 国 36 公 1,847 私 519 不 77
	国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 3 林班及び 4 林班の全部並びに 2 林班、5 林 班、7 林班、14 林班から 17 林班及 び 19 林班の各一部 国頭郡東村 字有銘、字川田、字慶佐次、字平良、 字高江及び字宮城の各一部	1,435 国 778 公 516 私 123 不 18	国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 2 林班の一 部 国頭郡東村 字有銘、字川田、字慶佐次、字平良、 字高江及び字宮城の各一部	756 国 99 公 516 私 123 不 18

都道府 県名	変更後		変更前	
	区域	面積 (ha)	区域	面積 (ha)
			変更部分面積合計	3,664 [国 3,472] 公 180 私 △1 不 13]
			変更前特別地域面積	12,616 [国 2,886] 公 7,245 私 2,269 不 216]
			変更後特別地域面積	16,280 [国 6,358] 公 7,425 私 2,268 不 229]

(ア) 特別保護地区

特別保護地区の区域の一部を、次のとおり変更する。

(表 6 : 特別保護地区変更表)

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
1	拡張	特別地域の拡張	伊部岳	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 41 林班及び 45 林班の 各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字安田の一部</p>	<p>伊部岳（標高 353m）の北東山麓及び南西山麓から 普久川にかけて広がる常緑広葉樹林で、林齢 80 年以 上の照葉樹林が良好な状態で残存している。ヤンバル クイナやノグチゲラのほか、周辺地域では、ケナガネ ズミなどの生息が確認されている。</p> <p>固有で希少な動植物の重要な生息・生育地であり、 伊部岳北西に広がる既存の特別保護地区とともに、 厳正に景観の保護を図るため特別保護地区とする。</p>	<p>279</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>275</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>4</td> </tr> </table>	国	275	公	0	私	0	不	4
国	275													
公	0													
私	0													
不	4													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
2	拡張	特別地域の拡張	脊梁山地	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 38 林班及び 39 林班の 全部並びに 36 林班及び 37 林班の各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字安田の一部</p> <p>沖縄県国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 3 林班及び 4 林班の全 部並びに 5 林班、 7 林 班及び 19 林班の各一部</p> <p>沖縄県国頭郡東村 字高江の一部</p>	<p>脊梁山地の東側に位置し、標高 250m 程度以上の山 地から 100m 程度の山麓まで広がる常緑広葉樹林で、 主に林齢 80 年以上の照葉樹林が良好な状態で残存し ている。</p> <p>特に、照首山の北東部の普久川上流域は、着生のシ ダ植物やラン科植物の他、溪流沿いの岩上に発達する 溪流植生などの希少な植物が確認されている。また、 標高の高い伊湯岳（標高 446.2m）周辺には、雲霧林が 発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存在す る。</p> <p>当該区域では、ケナガネズミ、ノグチゲラ、ヤンバ ルクイナなど固有動物及び希少動物の重要な生息地 となっているほか、渓流域にはオキナワイシカワガエ ルやホルストガエル、ナミエガエルなどの固有動物及 び希少動物が生息している。</p> <p>固有で希少な動植物の重要な生息・生育地であるこ とから、特別保護地区とし、厳正に景観の保護を図る。</p>	<p>1,126</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>1,121</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>5</td> </tr> </table>	国	1,121	公	0	私	0	不	5
国	1,121													
公	0													
私	0													
不	5													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
3	拡張	特別地域の拡張	東部地域	沖縄県国頭郡国頭村 国有林沖縄森林管理署 31 林班の全部並びに 28 林班、30 林班、32 林班 から 36 林班、42 林班及 び 43 林班の各一部	脊梁山地の東側に広がる標高 100m~200m程度の丘陵地で、林齢 70 年以上の照葉樹林が良好な状態で残存している。着生のシダ類やラン科類、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ケナガネズミなどの固有で希少な動植物の生息・生育地であることから、厳正に景観の保護を図るため特別保護地区とする。	815 国 815 公 0 私 0 不 0

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
					変更部分面積計	2,220 [国 2,211] 公 0 私 0 不 9]
					変更前特別保護地区面積	789 [国 236] 公 482 私 71 不 0]
					変更後特別保護地区面積	3,009 [国 2,447] 公 482 私 71 不 9]

(イ) 第1種特別地域

第1種特別地域の区域の一部を、次のとおり変更する。

(表7：第1種特別地域変更表)

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
1	拡張	特別地域の拡張	我地川流域	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 44 林班及び 46 林班の 各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字安田の一部</p>	<p>我地川流域に広がる標高 100m から 250m の区域であり、林齢 50 年以上の良好な照葉樹林が広がる。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホルストガエルやナミエガエルなどの希少で固有な動植物の生息・生育が確認されている。</p> <p>流域の連続性を確保するとともに、固有で希少な動植物の生息・生育地として風致の維持を図るため、第1種特別地域とする。</p>	<p>108</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>1</td> </tr> </table>	国	107	公	0	私	0	不	1
国	107													
公	0													
私	0													
不	1													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
2	拡張	特別地域の拡張	脊梁山地	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 63 林班の全部及び 57 林班の一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字与那の一部</p>	<p>脊梁山地の東側に位置し、標高 200m 程度以上の山地であり、林齢 70 年以上の良好な照葉樹林が広がる。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ケナガネズミなどの固有で希少な動物の生息が確認されている。また、安波川沿いには着生のシダ類やラン科植物、ハナサキガエルやホルストガエルなどの両生類などの固有で希少な動植物が生息・生育している。</p> <p>主要な林道が隣接して配置されていることに留意し、これら固有で希少な動植物の生息・生育地として十分な風致の維持と適正な利用の推進を図るため、第 1 種特別地域とする。</p>	<p>289</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	109	公	180	私	0	不	0
国	109													
公	180													
私	0													
不	0													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
3	拡張	特別地域の拡張	東部地域	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 33 林班及び 35 林班から 37 林班の各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字安田の一部</p>	<p>脊梁山地の東部に広がる標高 100m から 150m 程度の丘陵地及び照首山の東側山麓からフンガー湖に至る区域であり、林齢 30 年から 50 年程度の若齢の照葉樹林やリュウキュウマツの人工林が広がっている。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ケナガネズミ、リュウキュウヤマガメなどの固有で希少な動植物の生息・生育が確認されており、固有動植物及び希少動植物の生息・生育地の連続性を確保する観点から保護の重要性が高い。</p> <p>若齢林や人工林は高齢照葉樹林への再生・誘導に努めることとし、これら動植物の生息・生育地として風致の維持を図るため、第 1 種特別地域とする。</p>	<p>177</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>177</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	177	公	0	私	0	不	0
国	177													
公	0													
私	0													
不	0													
4	削除	特別地域の削除	ネクマチ ヂ岳・塩 屋富士	<p>沖縄県国頭郡大宜味村 字大宜味の一部</p>	<p>当該地域における一体的な公園管理を図るため、土地所有を精査し、区域線の見直しを行うもの。</p>	<p>△1</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>△1</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	0	公	0	私	△1	不	0
国	0													
公	0													
私	△1													
不	0													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
					変更部分面積計	573 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>国</td><td>393</td></tr> <tr><td>公</td><td>180</td></tr> <tr><td>私</td><td>△1</td></tr> <tr><td>不</td><td>1</td></tr> </table>	国	393	公	180	私	△1	不	1
国	393													
公	180													
私	△1													
不	1													
					変更前第1種特別地域面積	4,428 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>国</td><td>822</td></tr> <tr><td>公</td><td>3,271</td></tr> <tr><td>私</td><td>280</td></tr> <tr><td>不</td><td>55</td></tr> </table>	国	822	公	3,271	私	280	不	55
国	822													
公	3,271													
私	280													
不	55													
					変更後第1種特別地域面積	5,001 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>国</td><td>1,215</td></tr> <tr><td>公</td><td>3,451</td></tr> <tr><td>私</td><td>279</td></tr> <tr><td>不</td><td>56</td></tr> </table>	国	1,215	公	3,451	私	279	不	56
国	1,215													
公	3,451													
私	279													
不	56													

(ウ) 第2種特別地域

第2種特別地域の区域の一部を、次のとおり変更する。

(表8：第2種特別地域変更表)

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
1	拡張	特別地域の拡張	我地川流域	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 44 林班から 46 林班の 各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字安田の一部</p>	<p>我地川流域に広がる区域であり、林齢 75 年以上の 良好な照葉樹林が残存している。ノグチゲラやヤンバ ルクイナなどの固有で希少な動植物が生息・生育して いる。</p> <p>林業地域や農業地域に隣接しており、これらの動植 物の生息・生育地の保全に留意しつつ、我地川の流域 と一体的に風致の維持を図るため、第2種特別地域と する。</p>	<p>166</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>3</td> </tr> </table>	国	163	公	0	私	0	不	3
国	163													
公	0													
私	0													
不	3													
2	拡張	特別地域の拡張	普久川流域	<p>沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 41 林班から 43 林班の 各一部</p> <p>沖縄県国頭郡国頭村 字安田の一部</p>	<p>普久川流域に広がる風衝地及びダム湖周辺であり、 林齢 70 年以上の照葉樹林やリュウキュウマツ林が混 在し、ノグチゲラやヤンバルクイナなどの固有で希少 な動植物が生息・生育している。</p> <p>これらの動植物の生息・生育地の保全や、県道 2 号 線からの眺望、湖面利用などに留意し風致の維持を図 るため、第2種特別地域とする。</p>	<p>93</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	93	公	0	私	0	不	0
国	93													
公	0													
私	0													
不	0													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
3	拡張	特別地域の拡張	クイナ湖	沖縄県国頭郡国頭村 字安波の一部	安波川中流域に位置するダム湖である。環境教育及びレクリエーションの場としても重要であることから、河川環境の保全やダム湖から沿岸部の眺望に留意して、風致の維持を図るため、第2種特別地域とする。	80 国 80 公 0 私 0 不 0
4	拡張	特別地域の拡張	安波	沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 28 林班の一部	安波地区の集落に近い林齢 75 年以上の照葉樹林である。農業地に隣接するが、ノグチゲラやヤンバルクイナ、ケナガネズミなどの固有で希少な動植物が生息・生育している。 これらの動植物の生息・生育に留意しつつ、風致の維持を図るため、第2種特別地域とする。	20 国 20 公 0 私 0 不 0

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
					変更部分面積計	359 [国 356] 公 0 私 0 不 3]
					変更前第2種特別地域面積	4,054 [国 425] 公 2,271 私 1,258 不 100]
					変更後第2種特別地域面積	4,413 [国 781] 公 2,271 私 1,258 不 103]

(エ) 第3種特別地域

第3種特別地域の区域の一部を、次のとおり変更する。

(表9：第3種特別地域変更表)

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
1	拡張	特別地域の拡張	楚洲	沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 47林班の全部	脊梁山地の標高 300m程度の山地から東山麓、楚洲川まで広がる林齢 50 年生程度以上のスダジイを中心とした照葉樹の二次林である。 ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、イボイモリなどの固有で希少な動物が生息するほか、希少なラン科植物などの生育が確認されている。 これら動植物の生息・生育地の保全に配慮した森林管理により風致の維持を図るため、第3種特別地域とする。	243 国 243 公 0 私 0 不 0
2	拡張	特別地域の拡張	安田	沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 44林班の一部	林齢 75 年以上のリウキュウマツ林が広がっており、ノグチゲラやヤンバルクイナなどの固有で希少な動植物が生息・生育している。 これらの生息環境の保全に留意し、風致の維持を図るため、第3種特別地域とする。	14 国 14 公 0 私 0 不 0

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)								
3	拡張	特別地域の拡張	安田幸地 川流域	沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 42 林班及び 43 林班の 各一部 沖縄県国頭郡国頭村 字安波の一部	林齢 75 年以上の照葉樹林が大半を占め、人工林や試験地等が含まれる。ノグチゲラやヤンバルクイナなどの固有で希少な動植物が生息・生育しており、これらの動植物の生息環境の保全に留意し風致の維持を図るため、第 3 種特別地域とする。	233 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>233</td></tr> <tr><td>公</td><td>0</td></tr> <tr><td>私</td><td>0</td></tr> <tr><td>不</td><td>0</td></tr> </table>	国	233	公	0	私	0	不	0
国	233													
公	0													
私	0													
不	0													
4	拡張	特別地域の拡張	安波	沖縄県国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 28 林班の一部	安波地区の集落に近い標高 100m から 150m 程度の丘陵地でリュウキュウマツ林が広がっている。ノグチゲラやヤンバルクイナなどの固有で希少な動植物が生息・生育しており、これらの生息環境の保全に留意し風致の維持を図るため、第 3 種特別地域とする。	22 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>22</td></tr> <tr><td>公</td><td>0</td></tr> <tr><td>私</td><td>0</td></tr> <tr><td>不</td><td>0</td></tr> </table>	国	22	公	0	私	0	不	0
国	22													
公	0													
私	0													
不	0													

番号	区分	内容	名称	変更部分の区域	変更理由	面積 (ha)
					変更部分面積計	512 [国 512] 公 0 私 0 不 0]
					変更前第3種特別地域面積	3,345 [国 1,403] 公 1,221 私 660 不 61]
					変更後第3種特別地域面積	3,857 [国 1,915] 公 1,221 私 660 不 61]

イ 関連事項

(ア) 普通地域

普通地域の区域の一部を、次のとおり変更する。

(表 10 : 普通地域変更表)

都道府県名	変更後		変更前																
	区域	面積 (ha)	区域	面積 (ha)															
沖縄県	国頭郡国頭村内	912	国頭郡国頭村	887															
	国有林沖縄森林管理署 44 林班の 一部 国頭郡国頭村 字安田、字安波、字宜名真、字楚洲、 字浜、字比地及び字辺戸の各一部	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>国</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>414</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>389</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>61</td> </tr> </table>	国	48	公	414	私	389	不	61	字安田、字安波、字宜名真、字楚洲、 字浜、字比地及び字辺戸の各一部	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>国</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>414</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>389</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>61</td> </tr> </table>	国	23	公	414	私	389	不
国	48																		
公	414																		
私	389																		
不	61																		
国	23																		
公	414																		
私	389																		
不	61																		

都道府県名	変更後		変更前	
	区域	面積 (ha)	区域	面積 (ha)
			変更部分面積合計	25 [国 25] 公 0 私 0 不 0
			変更前普通地域面積	1,006 [国 51] 公 427 私 460 不 68
			変更後普通地域面積	1,031 [国 76] 公 427 私 460 不 68

ウ 面積内訳

(表 1 1 : 地域地区別土地所有別面積総括表)

地域区分		特別地域																普通地域 (陸域)				合計 (陸域)				海域公園 地区 ※	普通地 域 (海域) ※	合計 (海域) ※								
地種区分		特別保護地区				第 1 種				第 2 種				第 3 種																						
土地所有別		国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不											
沖縄 県	土地所有別 面積	2,447	482	71	9	1,215	3,451	279	56	781	2,271	1,258	103	1,915	1,221	660	61	76	427	460	68	6,434	7,852	2,728	297	0ヶ所 0 (0)	3,670 (100)	3,670 (100)								
	地種区分別 面積 (比率)					5,001 (28.9)				4,413 (25.5)				3,857 (22.3)																						
	地域地区別 面積 (比率)	3,009 (17.4)																				13,271 (76.7)														
	地域別面積 (比率)																	16,280 (94.0)				1,031 (6.0)							17,311 (100)							

(表 1 2 : 地域地区別市町村別面積総括表)

地域地区		現行									変更後										
		特別地域					普通 地域 (陸域)	合計 (陸域)	海域公 園地区	普通 地 域 (海域)	合計 (海域)	特別地域					普通 地域 (陸域)	合計 (陸域)	海域公 園地区	普通 地域 (海域)	合計 (海域)
市町村名		特保	第1種	第2種	第3種	小計						特保	第1種	第2種	第3種	小計					
沖縄 県	国頭村	786	2,759	2,642	3,194	9,381	887	10,268				2,327	3,333	3,001	3,706	12,367	912	13,279			
	大宜味村	3	1,377	962	137	2,479	85	2,564				3	1,376	962	137	2,478	85	2,563			
	東村	0	292	450	14	756	34	790				679	292	450	14	1,435	34	1,469			
	合計	789	4,428	4,054	3,345	12,616	1,006	13,622	0	3,670	3,670	3,009	5,001	4,413	3,857	16,280	1,031	17,311	0	3,670	3,670

4 事業計画の変更内容

(1) 施設計画

ア 利用施設計画

利用施設計画の一部を次のとおり変更する。

(ア) 単独施設

次の単独施設を追加する。

(表 1 3 : 単独施設追加表)

番号	種類	位置	整備方針	告示年月日
24	園地	沖縄県国頭郡国頭村（普久川）	フンガー湖及びその周辺の散策や、カヌーの利用により、照葉樹林や動植物が観察できる自然探勝のための園地として整備する。	新規

(イ) 道路

次の車道を次のとおり変更する。

(表 1 4 : 道路 (車道) 変更表)

現行					新規					理由
番号	路線名	区間	主要 経過地	告示 年月日	番号	路線名	区間	主要 経過地	整備方針	
3	東海岸線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（奥・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（楚洲・国立公園境界） 起点－沖縄県国頭郡国頭村（安田・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（安田・国立公園境界）	赤崎	平成 28. 9. 15 告示	3	東海岸線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（奥・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（楚洲・国立公園境界） 起点－沖縄県国頭郡国頭村（安田・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（安波北・国立公園境界） 起点－沖縄県国頭郡国頭村（安波西・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（安波南・国立公園境界）	赤崎	自然海岸の多い太平洋側の東海岸を通るルートとして、海岸部の風景地及び希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。	公園区域の拡張に伴い、新たに公園区域に編入される区域において適切な利用を図る上で必要な車道を公園事業道路として計画するもの。
4	山原横断線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（与那・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（奥与那林道合流点）	脊梁山地	平成 28. 9. 15 告示	4	山原横断線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（与那・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（安田・車道合流点）	脊梁山地	脊梁山地を通りながら東西を結ぶルートとして、森林景観及び希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。	公園区域の拡張に伴い、新たに公園区域に編入される区域において適切な利用を図る上で必要な車道を公園事業道路として計画するもの。

次の歩道を追加する。

(表 15 : 道路 (歩道) 追加表)

番号	路線名	区間	主要経過地	整備方針	告示年月日
8	フンガー湖探勝線	起点－沖縄県国頭郡国頭村 (安田西) 終点－沖縄県国頭郡国頭村 (フンガー湖西) 起点－沖縄県国頭郡国頭村 (フンガー湖東) 終点－沖縄県国頭郡国頭村 (安田東)	フンガー湖	フンガー湖及びその周辺の亜熱帯照葉樹林の自然や昔道を探勝するための歩道として、森林景観、固有で希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。【探勝歩道】	新規

次の歩道を次のとおり変更する。

(表 16 : 道路 (歩道) 変更表)

現行					新規					理由
番号	路線名	区間	主要経過地	告示年月日	番号	路線名	区間	主要経過地	整備方針	
1	伊部岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村 (伊部岳登山口・歩道合流点) 終点－沖縄県国頭郡国頭村 (伊部岳)	伊部岳	平成 28. 9. 15 告示	1	安田伊部岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村 (安田幸地原) 起点－沖縄県国頭郡国頭村 (安田漁港) 起点－沖縄県国頭郡国頭村 (イシキナ崎) 終点－沖縄県国頭郡国頭村 (伊部岳ウラジロガシ巨木) 終点－沖縄県国頭郡国頭村 (伊部岳)	安田集落 伊部岳	亜熱帯照葉樹林の自然やオキナワウラジロガシの巨木、生活の遺構を探勝する歩道として、また、ウミガメの産卵する海浜や亜熱帯照葉樹林の自然、ヤンバルクイナを観察する歩道として、森林景観、固有で希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。【探勝歩道】	伊部岳線道路 (歩道)、安田線道路 (歩道) とともに、安田集落を起点とした一体的な歩道利用を推進するため、両道路 (歩道) 計画を統合するもの。 また、伊部岳山頂付近に存在するオキナワウラジロガシの巨木を観察する利用が見込まれていることから、利用の質の向上のため、道路 (歩道) を計画するもの。
2	安田線	起点－沖縄県国頭郡国頭村 (安田幸地原) 終点－沖縄県国頭郡国頭村 (伊部岳登山口・歩道合流点)	安田集落	平成 28. 9. 15 告示						

現行					新規					理由
番号	路線名	区間	主要 経過地	告示 年月日	番号	路線名	区間	主要 経過地	整備方針	
3	与那覇岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（与那覇岳登山口） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（与那覇岳）	与那覇岳	平成 28.9.115 告示	3	与那覇岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（国頭村森林公園） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（与那覇岳）	与那覇岳	与那覇岳登山のための歩道や森林公園周辺の散策路として、森林景観、固有で希少な動植物の生息・生育及び植生の保護などに留意して整備・維持管理を図る。【登山道】	やんばる地域の利用拠点の一つである国頭村森林公園から核心部である与那覇岳までの一体的な利用を図りつつ、森林公園周辺については散策路としての利用を進めることで、与那覇岳における利用圧の分散を図るもの。
7	玉辻山線	起点－沖縄県国頭郡東村（福地ダム） 終点－沖縄県国頭郡大宜味村（大國林道）	玉辻山	平成28.9.15告 示	7	玉辻山線	起点－沖縄県国頭郡東村（福地ダム） 起点－沖縄県国頭郡大宜味村（大國林道） 終点－沖縄県国頭郡東村（イリンマタガー） 終点－沖縄県国頭郡東村（カタナバー） 終点－沖縄県国頭郡東村（ナカンタマチヂ）	玉辻山	玉辻山の登山及び福上湖におけるカヌー利用による周回利用のための歩道として、固有で希少な動植物の生息・生育及び植生保護などに留意して整備・維持管理を図る。【登山道】	現在福上湖を活用したダムツアーが盛んに行われており玉辻山の登山との一体的な周回利用を進めることで、利用の質を向上させ、さらに地域振興に寄与させるため。

5 参考事項の変更内容

(1) 過去の経緯

公園区域の指定等の過去の経緯を次のとおり変更する。

変更後	変更前
<p>ア 公園区域 平成 28 年 9 月 15 日 やんばる国立公園の区域の指定 (環境省告示第 87)</p> <p>イ 保護規制計画 平成 28 年 9 月 15 日 特別地域及び特別保護地区の指定 (環境省告示第 89 及び第 90)</p> <p>ウ 利用施設計画 平成 28 年 9 月 15 日 公園計画の決定 (環境省告示第 88)</p>	<p>記載なし</p>